



株式会社マルマエ
2019年8月期 決算 補足資料

2019年10月10日

総合力で未来を拓く

小物から大物までの真空パーツ・高精度部品



1.決算概要

PL分析

PL

	2018年8月期 累計期間		2019年8月期 累計期間		
	金額 (百万円)	割合 (%)	金額 (百万円)	割合 (%)	対前年同期 増減率 (%)
受注高	4,635	—	3,690	—	△20.4
受注残高	953	—	737	—	△22.7
売上高	4,588	100.0	4,019	100.0	△12.4
売上原価	2,810	61.2	2,949	73.4	5.0
売上総利益	1,778	38.8	1,069	26.6	△39.8
販売管理費	544	11.9	574	14.3	5.6
営業利益	1,234	26.9	495	12.3	△59.9
経常利益	1,211	26.4	477	11.9	△60.6
特別損益	4	0.1	108	2.7	2006.3
当期純利益	866	18.9	436	10.9	△49.6
EPS (円)	72.01	—	33.45	—	△53.5

Point

①受注状況

- 半導体分野：2,897百万円
(対前年同期：18.0%減)
- FPD分野：757百万円
(対前年同期：26.6%減)
- その他分野：36百万円
(対前年同期：47.4%減)

②売上高

- 対前年同期12.4%の減少
※分野別の詳細は次頁

③売上原価・売上総利益

- 材料費：26百万円増加
(対前年同期：3.8%増)
- 労務費：52百万円増加
(対前年同期：6.2%増)
- 外注加工費：173百万円減少
(対前年同期：26.7%減)
- 減価償却費：113百万円増加
(対前年同期：33.9%増)

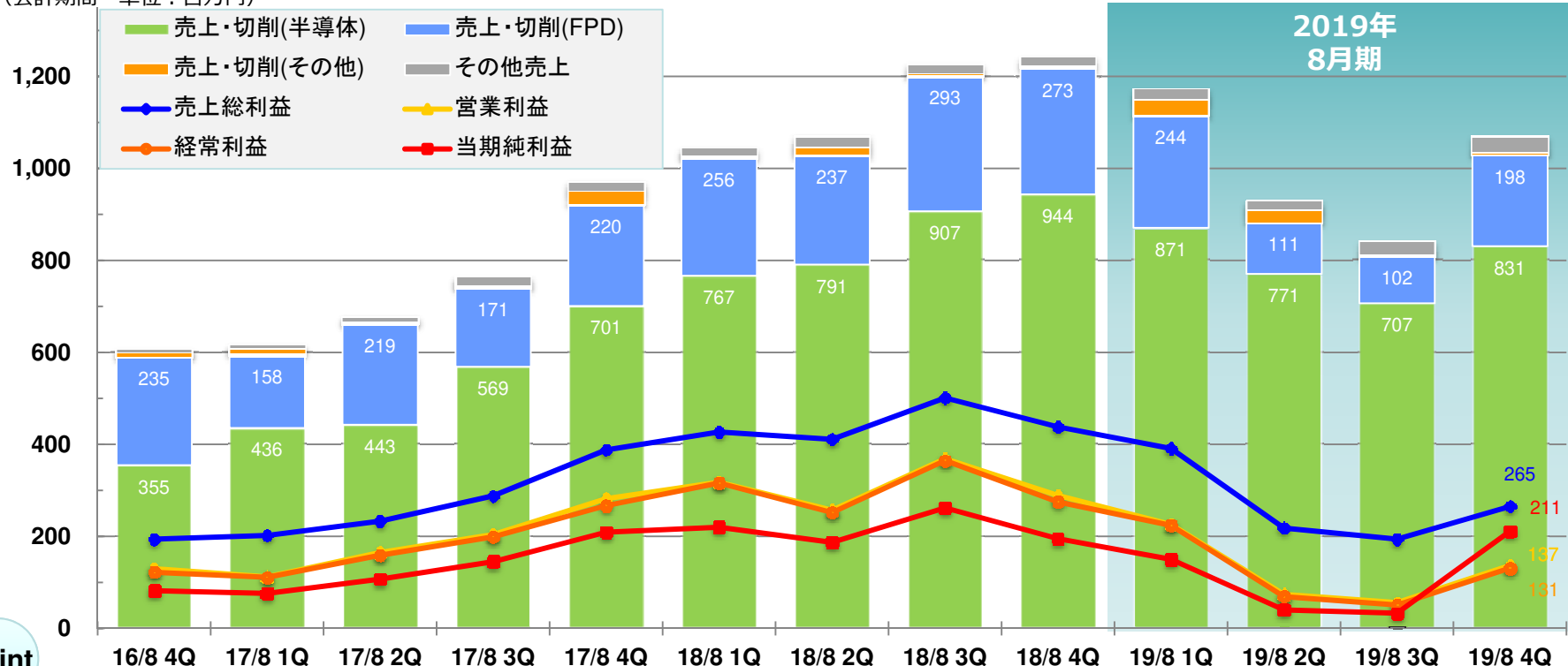
④営業利益

- 販管人件費：56百万円増加
(対前年同期：28.0%増)

1.決算概要

四半期業績の推移

(会計期間 単位：百万円)



Point

①売上高は、半導体・FPD分野共に停滞傾向

- 半導体分野：3,181百万円（対前年同期：6.7%減）
 - ・市場停滞による売上減。自動化による生産体制強化を継続
- FPD分野：657百万円（対前年同期：38.1%減）
 - ・G6有機EL投資が停滞し売上減少

■その他分野：69百万円（対前年同期：124.1%増）

②損益面は出水事業所設備稼働に伴う費用増等で減益

- ・昨年未まで生産設備の増強と人材採用を行ったことで、減価償却費や労務費等が増加
- ・内部管理体制の強化による販管費の増加

※グラフは四半期毎の会計期間の数値ですが、ポイントのコメントは当期の累計期間の数値となっております。

1.決算概要

B/S分析

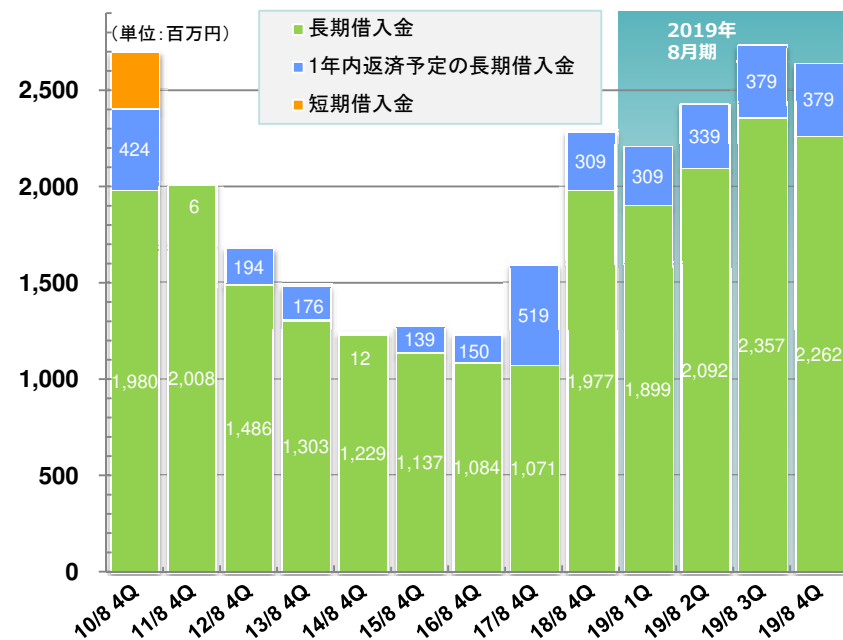
B/S

(単位：百万円)	2018年8月期 会計年度末	2019年8月期 会計年度末
流動資産	4,344	3,607
現金及び預金	2,612	2,263
売上債権 (受取手形・売掛金・電子記録債権)	1,236	834
たな卸資産	465	435
固定資産	3,743	4,721
建物・土地	1,816	2,448
機械及び装置	1,679	2,009
流動負債	966	731
有利子負債(短期)※	309	379
固定負債	1,989	2,289
長期借入金	1,977	2,262
負債合計	2,955	3,021
純資産合計	5,132	5,307
総資産	8,088	8,329

※ 有利子負債(短期)：短期借入金+1年内返済予定の長期借入金

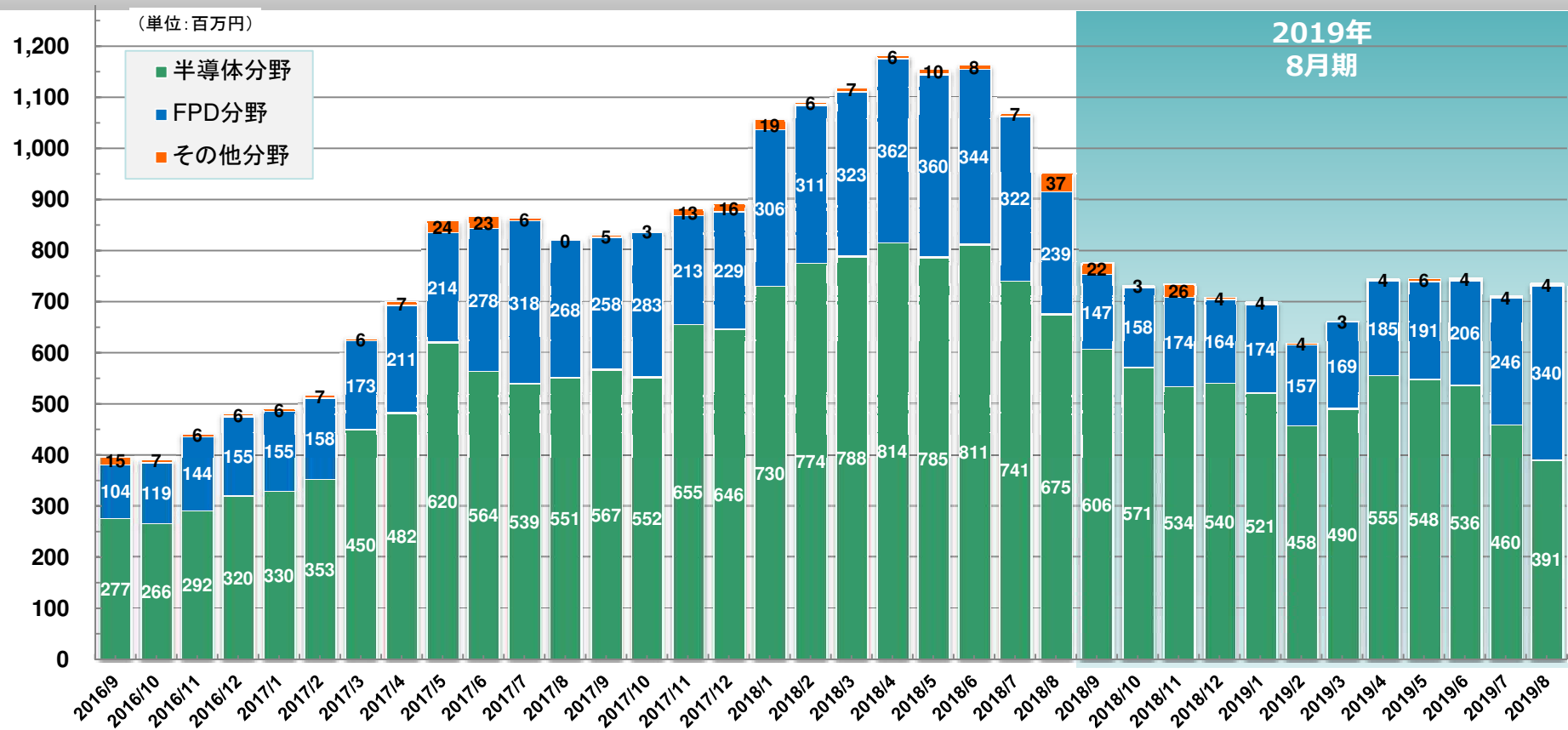
Point

- ① **資産：8,329百万円(前期末比:240百万円増加)**
 - ・有形固定資産：939百万円増加
 - ・売上債権：401百万円減少
 - ・現金及び預金：348百万円減少
- ② **負債：3,021百万円(前期末比:65百万円増加)**
 - ・長期借入金：285百万円増加
 - ・未払法人税等：289百万円減少
 - ・1年内返済予定の長期借入金：70百万円増加
- ③ **純資産：5,307百万円(前期末比:175百万円増加)**
 - ・利益剰余金：181百万円増加
 - ・自己資本比率：63.5%→63.7%



2.事業環境

月次受注残高の推移



Point

- 半導体分野は、ロジック向け回復あるも受注停滞傾向。足元は生産拡大もあり受注残減少
- FPD分野は、中小型パネル向けが回復。大型液晶パネル向けの一部中断もEBW工程受注拡大
- その他分野に予定していた太陽電池製造装置の受注が未達

※当社の受注は、案件ごとに長ささまざまなリードタイム (LT) があり、LTの長い案件が多いと売上高にくらべ受注残が多めで、LTが短い案件が多いと売上高にくらべ受注残は低めに表れます。

2. 事業環境



販売分野別の環境と方針等

半導体分野

- ◆ ロジック向けは高水準で、メモリにも設備投資計画出始める
- ◆ 国内装置メーカー向けは回復続く。試作品受注強化継続
- ◆ 新顧客開拓と受注品種拡充で業界内シェア拡大を狙う

FPD分野

- ◆ 中国で中小型有機EL設備投資再開
- ◆ 大型EBW※₁により真空チャンバーの溶接工程まで一貫受注
- ◆ 従来主力のコータデベロッパ※₂他、エッチング※₃工程も獲得

その他分野

- ◆ 市場環境の変化で太陽電池製造装置の計画霧散
- ◆ 生産余力を活かし半導体とFPD以外の受注進める

※₁ EBW：電子ビーム溶接の略。真空内で電子ビームを高速に加速し、素材に照射することによって素材を溶融させながら溶接する加工

※₂ コーターデベロッパ：基板上に感光材を塗布したり現像する工程

※₃ エッチング：プラズマを使い金属の膜を腐食（あるいは溶かす）させることで除去する工程

3. 2020年8月期の業績予想

今期の見通し(損益・設備投資・固定費要因)

業績
予想

(単位：百万円、1株当たり当期純利益は円)

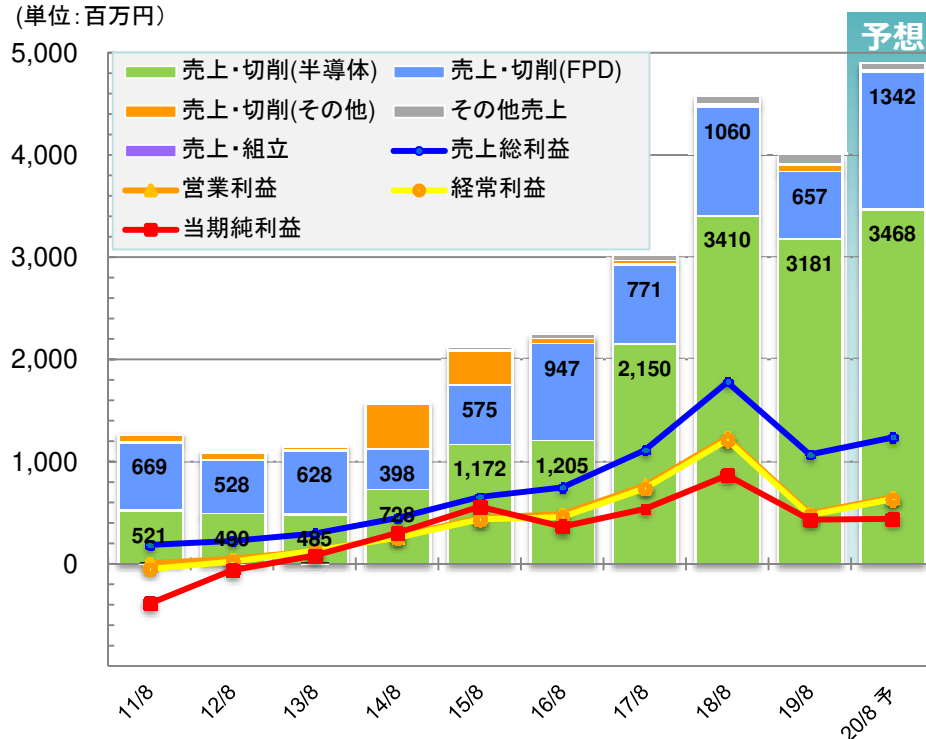
2020年8月期 業績予想	売上高	営業 利益	経常 利益	純利 益	1株当たり 純利益
第2四半期(累計)	2,050	131	122	85	6.51
通期	4,900	650	633	440	33.71

Point

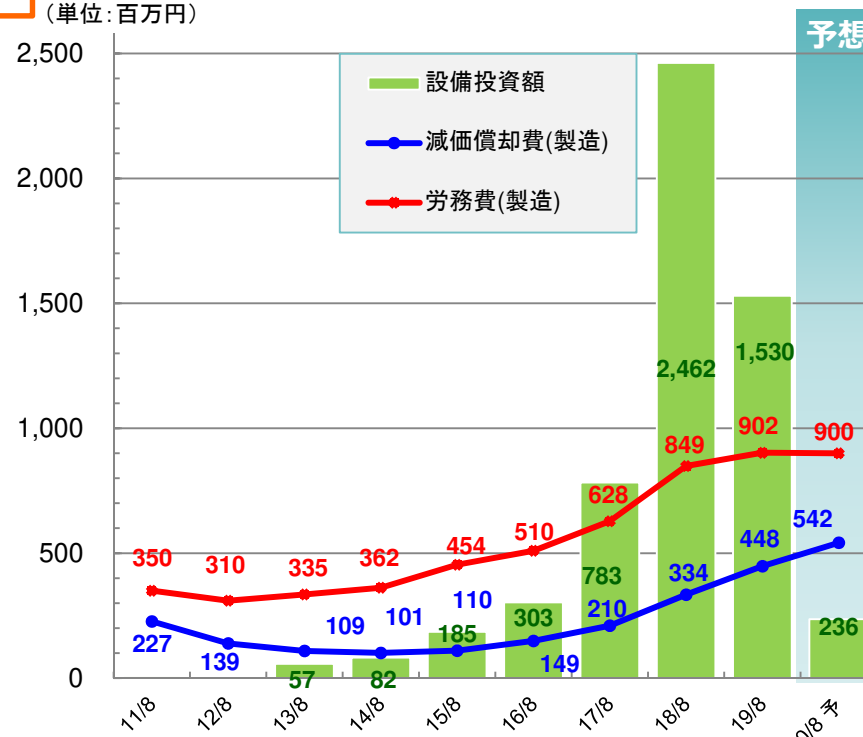
- ✓ 半導体分野は回復見込みも低水準な前提
- ✓ FPD分野はEBW工程が受注貢献
- ✓ 設備投資は抑制するも、既存生産力は維持
- ✓ 投資再開目途は、半導体4億・FPD1.5億/月

第1四半期は、売上停滞のなかで、総会費用等の季節要因や減価償却費増加見込みもあり、損益については低水準を見込む

(単位：百万円)



(単位：百万円)



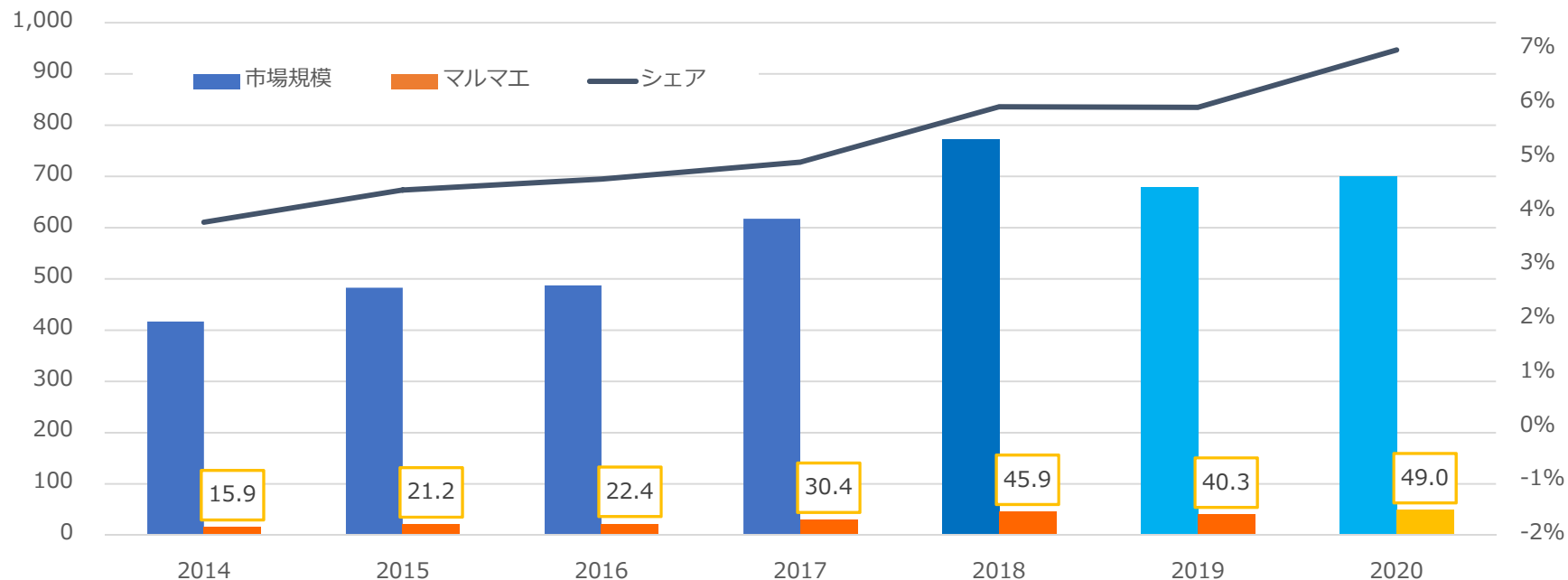
※設備投資額はキャッシュフローベースです。当期に稼働開始する設備は608百万円分の予想です。現時点における予想額で、変動があります。

3. 2020年8月期の業績予想

市場環境（当社の属する市場とシェア）

（単位：億円）

市場規模と当社シェア ※薄い色は当社予測



成長性

- ✓ 本項の市場規模データは、当社と類似した真空パーツを生産する企業で、当社が認識する一部（当社含30社）の企業について、各暦年に属する決算期末ごとの売上高を調査機関の情報を基に集計したものです。
- ✓ 2019年のデータは、30社中17社が当年度決算未反映のため、類似業者と決算期から推測した予測値となっています。
- ✓ 当社は、属する業界の中でシェア拡大を続けていますが、2019年のシェアは、前年比ほぼ横ばいにとどまっています。これはWFE市場停滞の影響が3月決算の企業は比較的に小さく、4月以降が決算期の企業は影響が大きくなっていることが原因です。当社の売上を3月末で算出すると前期比の売上は拡大しており、シェア拡大も継続していると言えます。
- ✓ 2020年は3月決算企業のシェアが前期の反動で低下することから、当社シェアは拡大する見込みです。

4. 中期事業計画「Innovation2021」



進捗：数値計画

新中期事業計画 Innovation2021

数値目標

売上高80億円 営業益24億円

市場悪く'19年8月期売上高40億円と進捗悪いが目標は維持 シェア拡大に注力

ROIC

資産ベースROIC 20%
負債ベースROIC 15%

'19年8月期実績：資産ベース5.4% 負債ベース4.3% 保有資産活用に注力方針

配当性向

配当性向 30%以上目標
最低配当額年間 10円

'19年8月期は上期10円期末5円 '20年8月期は上期5円期末10円見通し

4.中期事業計画「Innovation2021」

進捗：R&D

目標

- ・ 2021年8月期まで医療機器部門の事業化
(現リハビリ装置の医療機器認証取得、医療機器販売)
- ・ 2021年8月期まで自社のFA技術構築と技術者の育成
(自社システムの構築によりFA技術での生産性革新)



脳卒中による片麻痺
リハビリ
実証試験用評価機

医療機器部門

- ✓ 医療機器の認証計画に遅れ
新規装置かつ開発途上であることがネック
量産化と販売開始の遅れも見込まれる



- ✓ 今期中に開発継続か経営的判断行う
現在は、将来的新事業との位置づけであるが
予算削減の上で、当社のサステナブルな
取組への位置付けで長期的な取組みも検討
背景として、脳卒中による片麻痺に対する高い治療効果

自動化

- ✓ 生産性評価指標構築済み
- ✓ システム内製化に向けて人材確保進む
- ✓ FA機器およびソフトの内製能力高める

働き方改革（就業環境を改善しつつ高成長性の実現）

課題

- ・ 残業の抑制と報酬の維持
- ・ やりがい向上と高生産性の実現

人の生産性向上に向けたマルマエの施策

数十時間程度の
固定残業代支給

+

3か月ごとの
成果給支給

残業上限設け上司へ
注意喚起メール等
残業抑制策実施

残業時間から
業績貢献への
意識改革

- ✓ 固定残業代制度の採用で、いわゆる「生活残業」を無くし、残業代獲得の意識解消
- ✓ 3か月ごとに、会社業績への貢献度合いを個人別に測り、大胆に差をつけた評価実施
- ✓ 現在は正社員のみに採用。一定の効果を観測
- ✓ 期間契約社員は時給を採用。同一労働同一賃金への対応は業務内容の分別

※本制度については10年以上の実績があり、さらにブラッシュアップ中

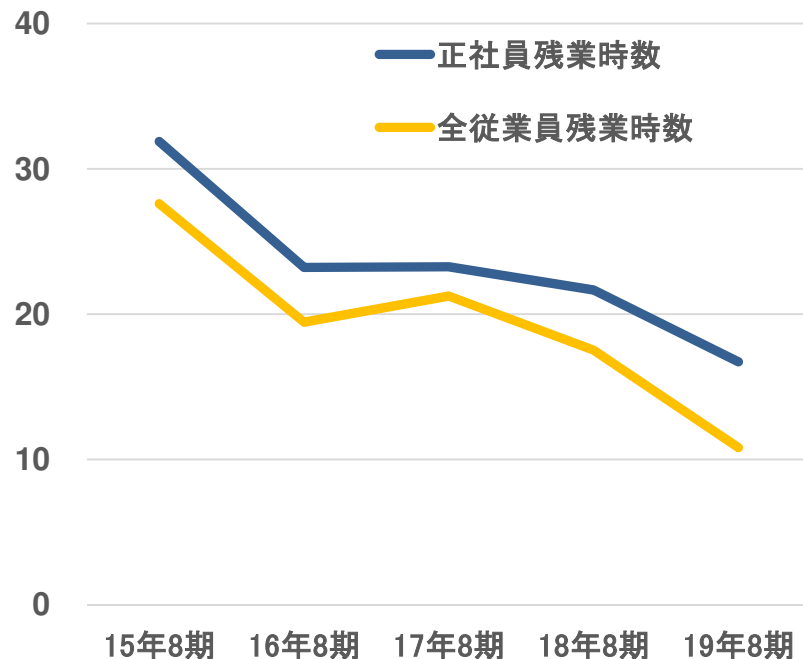
5. 課題への取り組み Sustainable Management

働き方改革（就業環境を改善しつつ高成長性の実現）

実績

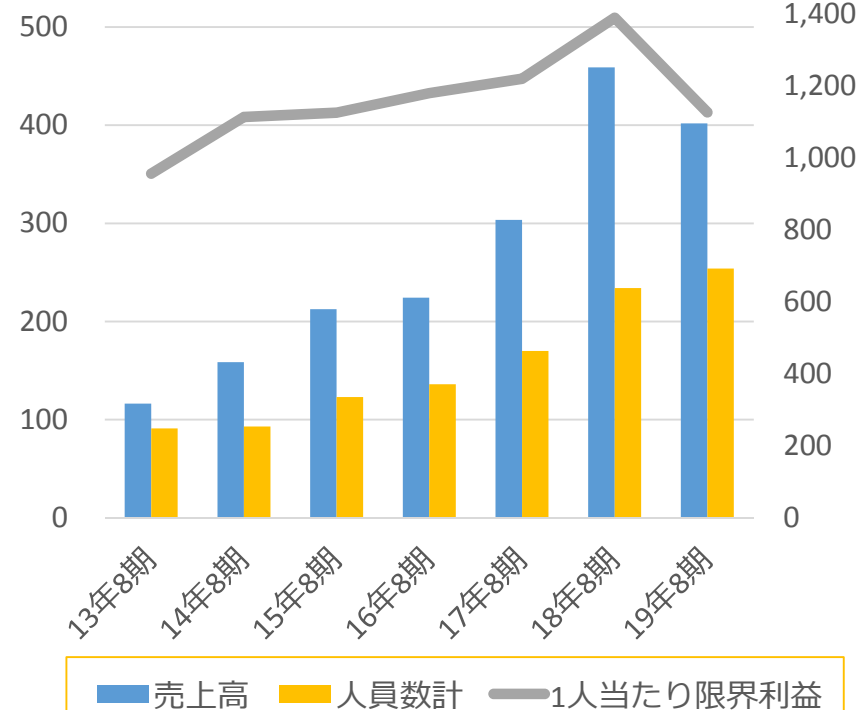
- ・ 残業時数の推移
- ・ 全従業員一人当たり生産性の推移

1か月あたり平均残業時数
(単位:時間)



売上高(単位:千万円)
人員数(単位:人)

限界利益
単位:万円



- ✓ 1人当限界利益算出時の全従業員数には派遣社員を含み、期中平均は採らず、簡易的に期末の人員数で算出しています
- ✓ 過去5年間は残業時数を継続的に短縮し1人当限界利益は増加傾向（'19は市場停滞と環境美化など間接人員増で停滞）

5. 課題への取り組み Sustainable Management

実績

定着率

新卒者3年内離職率

(新卒者の内訳は、高校生と大学生を合算し、離職率は過去3年以内で算出)

期間(至)	'15年3末	'16年3末	'17年3末	'18年3末	'19年3末
新卒入社	4	5	2	3	6
退職者数	0	0	0	1	0
3年内離職率	0%	0%	0%	10%	9.1%

社員全体離職状況

期間(至)	'15年8末	'16年8末	'17年8末	'18年8末	'19年8末
正社員数	74	76	85	107	120
正社員退職数	4	1	2	5	5
契約社員数	43	53	76	97	120
契約社員退職数	4	8	3	18	16

- ✓ ここに記載の契約社員とは、1年以内の期間を定めて雇用する時間給の社員で、パート社員も含む
- ✓ '18年~19年末にかけて管理部門に多くの中途者を採用も、業務内容のミスマッチが多く離職増要因
- ✓ 期間契約社員の退職が目立つことから、同一労働同一賃金に合わせ待遇改善推進中（正社員登用も定期的に実施）

5. 課題への取り組み Sustainable Management

実績

従業員年齢分布

従業員年齢分布

若年者の雇用も順調で、全年齢にバランスよく分布

年代	～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～
女性	10	20	8	11	7	3
男性	50	53	32	27	11	8
合計	60	73	40	38	18	11

当期より高齢者雇用で社内外の環境美化活動を活発化するなど、適材適所で65歳以上の雇用にも積極的





私達は持続可能な経営を念頭に
技術で社会貢献できる企業を目指します

本資料に掲載された情報、及び、口頭によって説明された実現していない内容に関しては、ある一定の仮定の元に予想された見通しであり、マルマエ経営陣の判断など不確実要素を含んでおります。

本資料は、株主・投資家などの皆様にマルマエの現況と経営方針をご理解いただくために作成されたものであり、利用者に対して、当社株式の購入・売却など投資判断を提供するものではありません。投資に関する責任は負いません。

数値などの情報には注意をはらっておりますが、掲載の内容については未監査の数値も多く、確度を保証するものではありません。また、掲載された情報、またはその誤りについて、その理由に関わらず、当社は一切責任を負うものではありません。

本資料に関するお問合せ先
株式会社マルマエ 管理本部総務課 IR担当

ir@marumae.com

TEL 0996-68-1140 FAX 0996-68-1151



Company Profile

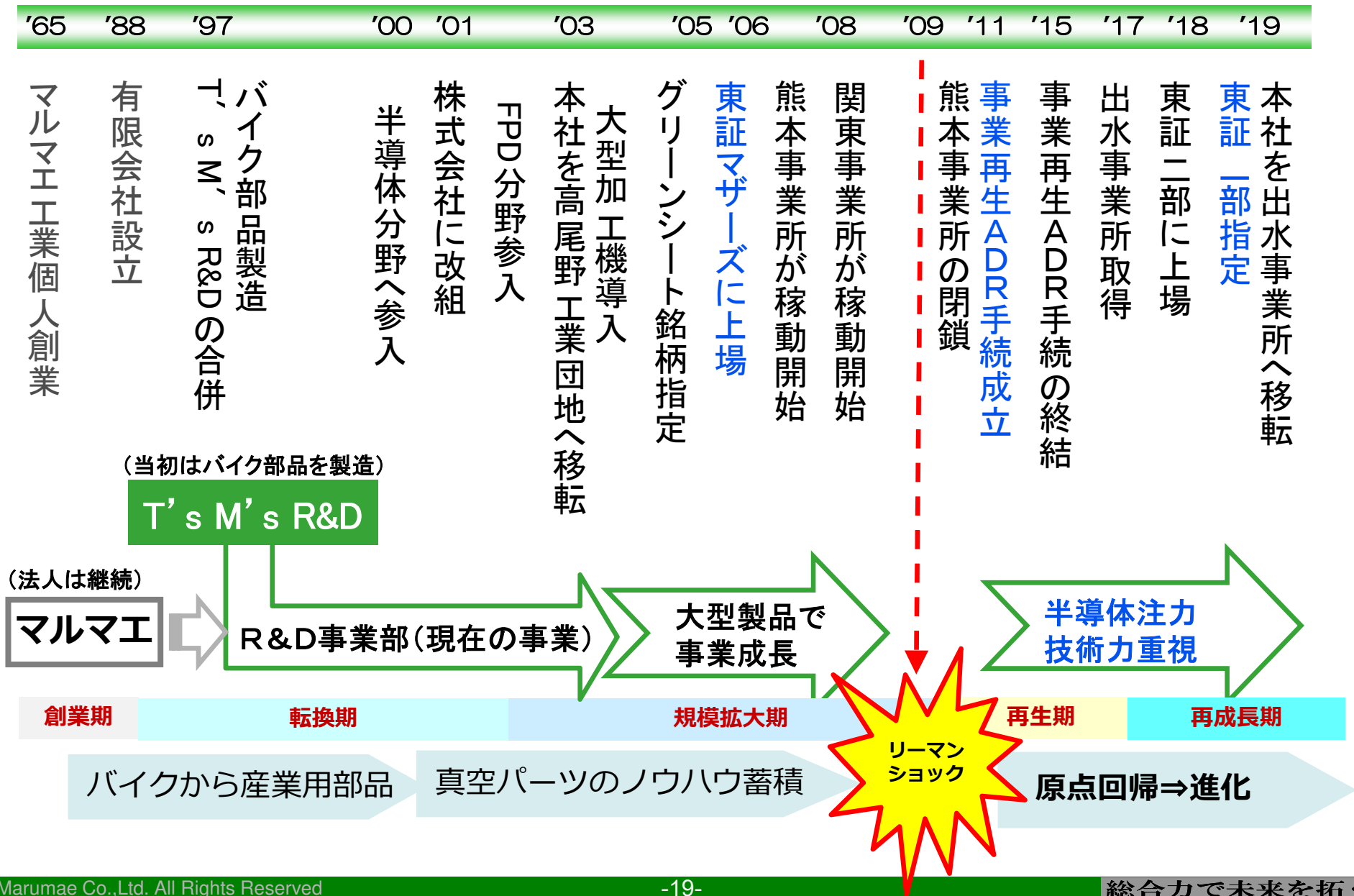
企業情報

6. 参考資料（現事業の始まり）

現在の事業はレース活動から始まりました

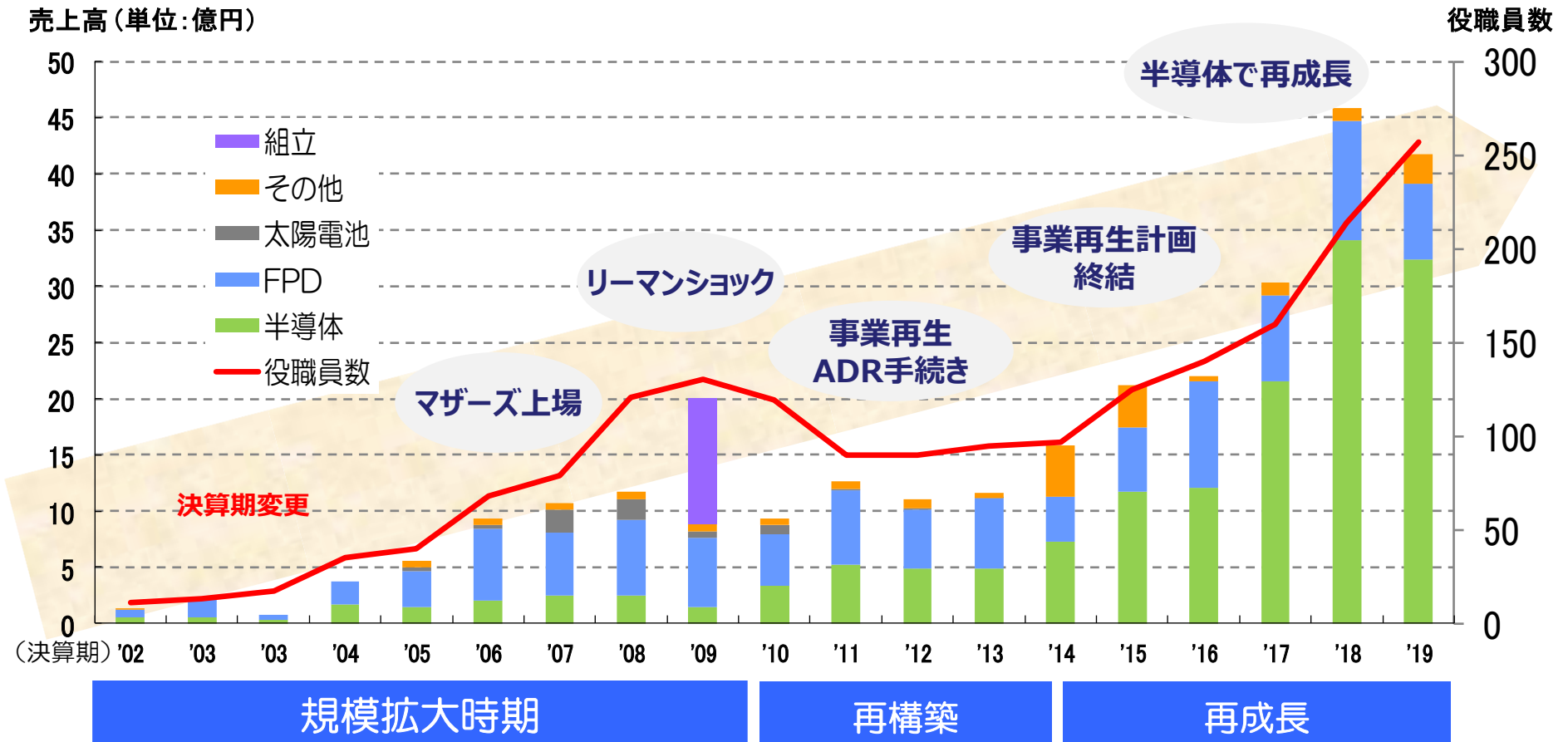


6. 参考資料(沿革と事業変遷)



6. 参考資料(沿革と事業変遷)

事業成長と成長ドライバー



6. 参考資料（現在の事業内容）



当社製品は世界中で半導体・液晶製造装置の心臓部を支えています

主要工程

エッチング
CVD
コータ/デベロッパ
スパッタ
枚葉洗浄
アッシング
ウエハーボンディング
イオン注入
アニール

主要製品

真空チャンバー
シャワーヘッド
排気板
静電チャック
ヒーター類
上部電極
ターゲット
搬送系パーツ類
各種真空パーツ類

※画像はイメージです

6. 参考資料（会社概要）

会社名	株式会社マルマエ（Marumae Co., Ltd.）	発行済株式総数	13,053,000株
設立	1988年10月	単元株式数	100株
資本金	12億4,115万円（2019年8月31日現在）	株主総数	7,959名
役員	代表取締役社長 前田 俊一 取締役 海崎 功太 取締役（監査等委員） 兒島 吉二 取締役 安藤 博音 取締役（監査等委員） 鶴田 俊成 取締役 古江 博 取締役（監査等委員） 寺畑 幸雄 取締役（監査等委員） 梶 智和 取締役（監査等委員） 大道 卓 取締役（監査等委員） 桃木野 聡	大株主 （普通株式）	前田 俊一 4,818,100株 日本トラスティ・サービス 信託銀行（信託口） 750,600株 前田 美佐子 504,000株 日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口） 248,300株 前田 良子 180,000株 川本 忠男 172,700株 五十嵐 光栄 168,000株 日本トラスティ・サービス 信託銀行（信託口5） 159,500株 J.P. MORGAN BANK LUXEMBOURG S.A. 1300000 （常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業 部） 136,200株 マルマエ共栄会 122,900株
従業員数	240名 うち 臨時雇用者等 120名（2019年8月31日現在） 他 派遣社員12名		
所在地	出水事業所 〒899-0216 （本社） 鹿児島県出水市大野原町2141番地 高尾野事業所 〒899-0401 鹿児島県出水市高尾野町大久保3816番41 関東事業所 〒351-0014 埼玉県朝霞市膝折町2-17-15		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・精密機械、精密機器の設計、製造、加工 ・精密機械部品の設計および製作 ・産業および医療機械器具の設計、製造、販売 ・ソフトウェアの開発、販売 ・製缶工事 ・配管工事 ・運送業務 ・不動産の賃貸 		
経営理念	<ul style="list-style-type: none"> ・技術は究極を目指し ・競争と協調を尊び ・技術注力企業として社会に貢献する <p>経済を支える“モノづくり”の中で、モノづくりの源流である部品加工にこだわっていきます。そして、さまざまな分野で総合メーカーを支えられる企業となるために先端技術と供給力を持つ部品加工のリーディングカンパニーを目指します。</p>		

（注）自己株式が150株あります。
（2019年8月31日現在）